

令和4年度第1回大府市環境審議会 議事録

日時：令和4年7月6日（水）

午後3時から

会場：大府市役所 会議室 201

＜委員出席者＞ 12名（敬称略）

千頭聡（日本福祉大学国際福祉開発学部教授）、西村和子（大府市教育委員会教育委員）、村瀬由理（大東小学校再任用・教諭）、横井良宏（愛知県知多県民事務所環境保全課課長）、安藤吉富（区長会会長）、倉元須麻子（大府市地域婦人団体連絡協議会会長）、加古多美子（あいち知多農業協同組合女性部大府地域部長）、坂野好子（バンノ自動車商会代表）、深谷多恵子（株式会社みどりや）、深谷修司（株式会社豊田自動織機安全・総務部環境室室長）、相木徹（オオブユニティ株式会社代表取締役）、横山真弓（一般市民）

1. 開 会

・環境課長あいさつ

2. 議題

（1）会長及び副会長の選任について

【委員】

会長に千頭委員、副会長に西村委員を推薦する。

【全体】

本提案について、満場一致で会長・副会長を選任。

（2）環境マネジメントシステムに関する取組について

【事務局】

資料1について説明。

【会長】

食品ロス削減取組の給食数の事前把握について、ある程度の過剰分であれば消費ができると思うが、どうか。

【事務局】

土曜日や年末年始等、大幅な食数の変動が予想される場合についても行っているため、園内で消費しきれない分についてもカバーできる取組だと考えられる。

【委員】

第3次大府市環境基本計画の成果指標について、コロナ禍でイベントの開催自体が難しいこともあると思うが「地域のイベントに協力している」市民の割合は、コロナ以前と比べ

てどうか。小規模で行う等やり方を工夫することで成果指標を高められるのではないか。また、「太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入・節電などの省エネルギーに取り組んでいる」市民の割合の減少についてはどうか。

【事務局】

「地域のイベントに参加している」市民の割合については、令和2年度の調査結果のため、コロナの影響が大きいと考えられる。時代に合ったイベントの開催方法を継続して検討していく。「太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入・節電などの省エネルギーに取り組んでいる」市民の割合については、昨今かなり再エネ・省エネの意識の向上や補助金等の支援メニューも増えているため、今後さらに啓発を進めていく。

【委員】

市内の食品ロスの総量や内訳等はわかるか。食品ロスの削減効果の見える化をすれば意識向上につながるのではないか。

【事務局】

市内全体でバイオマスプラントへ搬入している食品残渣は150 tほどである。今後ご指摘の事項について確認していきたい。

【委員】

市内の二酸化炭素排出量削減のために最も力を入れて取り組むべきことは何か。

【事務局】

市内の二酸化炭素排出量が最も大きいのは、製造業を中心とした産業部門で全体の7割を占める。本市では昨年度より中小企業向けの省エネ等に関するセミナーや個別診断を通して支援を行っている。

家庭部門については、まず取り組んでいただきたい具体的なエコアクションを示すことで行動変容を促していきたいと考えている。

【副会長】

換気をしつつ効率的に空調を利用できる方法やマニュアル等があるとよいと思うがどうか。

【事務局】

換気の判断指標として、CO₂計を用いた濃度管理の方法がある。職員向けに行う研修等で、換気の判断指標の一つとして二酸化炭素濃度の指標の周知を検討する。

(3) 令和3年度一般廃棄物処理実績について

【事務局】

資料2について説明。

【委員】

乾電池は具体的にどのように再利用されるのか。

【事務局】

乾電池は溶解した後、金属として再利用する。

【委員】

市外へのごみの搬出分については市が処理費用を負担しているのか。

【事務局】

実験動物の屍体等、項目によっては市が負担していないものもある。費用の負担有無は搬出先市町の条例等によって変わることがある。

【委員】

乾電池は年に何回市外搬出しているのか。

【事務局】

年2回搬出している。

【委員】

家庭系ごみ、事業系ごみの量が減少傾向にあるが、単純にごみ減量化が進んだのか、それともコロナ前のごみの量に戻ってきたということか。

【事務局】

令和元年度実績と比較すると少ない傾向にあるが、今後コロナの状況によってどうなるか見通しは立っていない。

【委員】

バイオマスごみ袋の価格が今後上がる可能性はあるか。また、市としてどの程度の価格まで抑えられるか。

【事務局】

製造原価や輸送費の影響によるため、価格が上がる可能性はある。市として販売価格は決めているので価格は入札価格による。

【会長】

生活排水処理について、処理人口は前年度よりも減少しているが、浄化槽汚泥量は増加している。これは浄化槽の清掃等の啓発が進んだ成果ととらえてよいか。

【委員】

県条例の制定もあり、啓発は進んでいると考えてよいと思う。

【委員】

余った旧ごみ袋の利用方法の啓発を進めていただきたい。

【事務局】

問い合わせ時に資源回収で使用できる旨を説明している。

【副会長】

市のボランティアごみ袋のように、透明な袋だと中身の判断が付きやすいので回収効率が上がるのではないか。

(4) 美しいまちづくり表彰について

【事務局】

資料3について説明。

【全体】

推薦事項について、承認。

3. その他

(1) 市民向け環境配慮行動指針（シビック・エコアクション8）及びグリーンライフポイント制度（案）について

【事務局】

資料4について説明。

【委員】

エコアクションについては所属団体でも同様の取組を行いたいと考えており、今後ぜひ事業に参加していきたい。

【会長】

景品は市が用意するのか。例えば、企業の協賛はあるのか。

【事務局】

今年度は市が用意する。今後の可能性としては企業からの協賛等も視野に入れている。

【会長】

エコアクションで「フジバカマ植栽」を推進するのであれば、「プランター使用」を前提に案内した方がよい。

【委員】

大府市で植栽を行っているものは当地域由来のものだが、フジバカマにも様々な種類があり、外来種の移入にならないように気を付ける必要がある。そのため大府市では、当地域由来のものにこだわって推進をしてほしい。

【事務局】

市が事務局をしている「大府市環境パートナーシップ会議」をはじめとしたフジバカマの植栽講座、啓発の場では「プランター使用」を案内しているので、今後も継続して行う。

【委員】

ポイント制度について、項目に「環境イベント等への徒歩参加」もあるとよい。

【委員】

ポイント制度について、1つのイベント参加で2ポイントもらえるという認識でよいか。また景品数が少ないよりもある程度当選数があったほうが参加者の意欲向上につながると思う。

【事務局】

景品の単価を下げて品数を増やすということも含めて今後検討していく。

【委員】

応募口数に応じたの当選確率について何か配慮はできないか。

【委員】

応募口数が多い人は必然的に当選確率が上がる。

【委員】

エコアクションやポイント制度には年齢制限はあるのか。

【事務局】

特に設ける予定はない。

【委員】

ポイント制度について、景品・内容ともに参加する年齢層が広がる内容にしたほうがよい。また、抽選の参加基準が低いのではないか。

【事務局】

内容については、今後さらに検討する。事業の主旨は、これまで環境に関心のなかった方に興味を持ってもらうことなので、あえて参加のハードルを下げている。

【委員】

事業の開始時期・公表時期はいつか。

【事務局】

夏期から秋期頃を検討中。

(2) プラスチック資源循環促進法とその対応について

【事務局】

【副会長】

回収の際の袋は指定するのか。

【事務局】

現段階では、資源回収の袋と同様に特に指定はしない予定。

【委員】

製品プラは固く、量的にもかさばるが収集可能か。

【委員】

汚れたものの仕分けなど、個人では判別が難しい場合もあると思う。

【委員】

電池の入った玩具等、判断が難しい場合もあるので仕分け・選別方法の周知が重要であるため、具体的な中身の検討をお願いしたい。

【事務局】

周知方法や選別の基準について、今後検討していく。

4. 連絡事項

- ・次回は、令和5年3月頃開催予定。